

注目ポイント！

「大内文化特定地域」「萩往還」の美しい自然や景観、歴史的建造物や伝統工芸など地域の資源を活用し、観光客が回遊するまちづくり。



山口市観光客数が約180万人(H12)から約305万人(H17)に増加！
アートふる山口の観光客数、約3万人(H8)から約6万人(H17)



アートふる山口で賑わう一の坂川沿い

コラム

「生まれも育ちも山口」という小山さん。建築士の仕事の傍ら、様々なまちづくりの活動に携わる。「アートふる山口」の実行委員長を歴任するほか、市民参加型のまちづくり拠点「NPO法人山口まちづくりセンター」の立ち上げに参加。新たな「西の京」に向けた取り組みが進められている一の坂川周辺を中心とした「町屋再生」による街並み環境整備にも取り組んでいる。



NPO法人
山口まちづくりセンター
小山 哲彦氏

これまでの経緯

- 昭和46年(1971) 一の坂川が台風による大きな被害を受ける。
- 昭和52年(1977) 一の坂川で「ほたる祭り」が始まる。
- 平成4年(1992) 山口市観光ボランティアガイドの会が発足する。
- 平成8年(1996) 第1回アートふる山口が開催される。
- 平成11年(1999) 「山口中心市街地まちづくり推進協議会」が設立される。
- 平成12年(2000) 「NPO法人山口まちづくりセンター」が設立される。
- 平成13年(2001) 山口きらら博が開催される。
- 平成15年(2003) 大内文化まちづくり推進計画を策定する。
- 平成16年(2004) 「山口市菜香亭」が開館する。
- 平成17年(2005) 「一の坂川ホテル護岸」が手づくり郷土賞(大賞部門)を受賞する。
- 平成18年(2006) アートふる山口テーマ館大路Lobby(おおじロビー)がオープンする。

主な取り組み

「アートふる山口」～街がまるごと美術館に！～

室町時代、西の京と謳われた山口。その大内文化を代表する瑠璃光寺や雪舟庭に始まり明治維新に至るまでの歴史を物語る宝物(歴史遺産)を山口は多く抱える。

しかし、大切な歴史が失われつつあると危機感を持った青年会議所が中心となり、地域に残るお宝、各家に残るお宝を市民、特に若者が再発見、再認識することを目的としたイベント「アートふる山口」を開始。お宝を繋ぎ情報発信することから始まったこのイベントも、今では市民が主体となった地域を代表するイベントとして定着。平成18年には国民文化祭「街なか生活文化祭」のメイン舞台に至るまでに。

平成17年からは、いつでも展示が楽しめる「いつでもアートふる山口」を開始。企画展示を季節ごとに行うなど、年中楽しめる取り組みへと発展。

「アートふる」とは、「天から降る」、アートが「full = いっぱい」、つまり街全体を身近に飾り尽くそうとの想いで生まれた造語で、その中心となるのが一般民家を開放して街を繋ぐ「小さな美術館」です。



「アートふる山口」実施状況



夜の一の坂川

一の坂川環境整備を活かした取り組み

ゲンジボタルの生息地として知られた「一の坂川」。昭和46年の台風による大水害をきっかけに、ホタル護岸の整備が進められた。昭和52年から「ほたる祭り」が始まり、一帯の照明を落として行われる「ほたる観賞の夕べ」には、ホタルが飛び交う幻想的な風景をみよう、多くの人でにぎわう。ホタルの生息環境を取り戻した一の坂川は、桜並木と併せて地域のかげがえのない財産となり、昭和62年には手づくり郷土賞を受賞した。これをはげみに、環境保全意識が高まり、地域住民による清掃やホタルの放流など環境を守る活動が定着。平成17年には、手づくり郷土賞の大賞部門を受賞。春の「桜」、初夏の「ホタル」、秋には「アートふる山口」と四季を通して楽しめる観光地となった。



一の坂川の桜並木



子供たちによるカワニナの採取

問い合わせ先

山口市 経済部 観光課

Tel : 083 - 934 - 2810

アートふる山口実行委員会

Tel : 083 - 934 - 3515

<http://www.city.yamaguchi.lg.jp/kanko/org/index.html>

<http://www.artfull.gr.jp/>